P-30 九州歯科大学附属病院歯科外来患者の有病者の検討

○高田 豊*・笠井 幸子**・加藤 恭裕**・橋田ひとみ*・藤川 潤*・豊田 一則*
*九歯大・内科, **九歯大・口衛

Medical Complications in Dental Outpatients in Kyushu Dental College Hospital

○Yutaka Takata *, Sachiko Kasai **, Yasuhiro Katoh **, Hitomi Hashida *, Megumi Fujikawa* and Kazunori Toyoda* (*Internal Medicine and **Preventive Dentistry, Kyushu Dental College)

Key words: Medically compromised patients /
Medical diseases / Dental outpatients

目的

九州歯科大学附属病院歯科入院患者の医科疾患有病率に関する報告を行い¹⁾²⁾, その中で病歴聴取よりも診察・検査所見結果を用いた診断の方がより鋭敏であることを示した。また, 加齢により著しい医科疾患の有病率上昇が見られることも発表した²⁾。しかしながら, これまで当大学付属病院の外来患者の有病率に関する研究はなされていない。そこで今回は各歯科診療科を受診した初診患者の全身医科疾患有病率を臨床統計学的に検討した。

方法

平成 7 年 9 月 14 日から 12 月 4 日の間に九州歯科大学付属病院の各歯科診療科を外来受診した 990 名の初診患者を対象とした。アンケートにて全身性疾患の有無と高血圧, 狭心症, 不整脈, 脳卒中, 消化性潰瘍, 糖尿病, 肝臓病, 腎臓病各疾患の有無を調査した。

結果および考察

受診者は平均 40.6 歳 (0 から 87 歳: 男 374 名, 女 616 名) で, 全身性医科疾患を 301 名 (30.4%) が現在持ち, 474 名 (47.9%) が過去に持っていた。個別の内科疾患では現在・過去共に高血圧が最も多く, 次に狭心症, 消化性潰瘍, 肝臓病であった。歯科診療科別の患者年齢では補綴科が最も高齢で次に麻酔科であった。全身疾患有病率は麻酔科, 補綴科の順で, 老年者を診療する科ほど有病者が多かった。年齢群に分け検討すると高齢

者程有病率が高く 70 歳以上では有病率が現在 64.2%, 過去 74.7%であった。各内科疾患別の有病率も加齢で急増した。特に高血圧, 狭心症, 糖尿病は頻度も高く加齢でも増加した。しかしこれらの疾患は 30 歳以下では稀であった。今回の調査項目に入っていないが多かった内科疾患では気管支喘息, 甲状腺疾患が挙げられた。また, 少数ではあるが歯科診療に影響を与える可能性のある疾患ではペースメーカー装着, 非虚血性心臓病, 慢性関節リウマチ, 特発性血小板減少性紫斑病, パーキンソン病があった。本研究における医科疾患有病率は当院口腔外科入院患者の有病率 38%¹⁾とほぼ一致する結果であった。また内科疾患別の入院患者有病率も本研究と同じく高血圧を中心とする循環器疾患が最も高頻度であった。加齢による明らかな医科疾患と内科疾患の増加も当研究の外来歯科患者と入院口腔外科患者²⁾で同様に認められた。

結論

外来歯科患者の全身医科疾患と内科疾患は入院口腔外科患者と同様に 30%程度であり, 高血圧を中心とした循環器疾患が多く, 加齢と共に急増した。

文献

- 1) 黒田健郎, 高田 豊, 黒川英雄, 立石 晃, 原 巖, 橋田ひとみ, 豊田一則, 福田仁一, 梶山 稔: 九州歯科大学附属病院口腔外科入院患者における有病者の実態—病歴聴取および臨床検査値からの検討—。九州歯会誌 50 (1): 362-366, 1996.
- 2) 高田 豊, 黒田健郎, 黒川英雄, 立石 晃, 原 巖, 藤川潤, 豊田一則, 橋田ひとみ, 土橋卓也, 八尾博史, 福田仁一, 梶山 稔: 口腔外科入院患者における加齢と内科疾患の関連。九州歯会誌 50 (3): 477-483, 1996.